

とよ♡たち

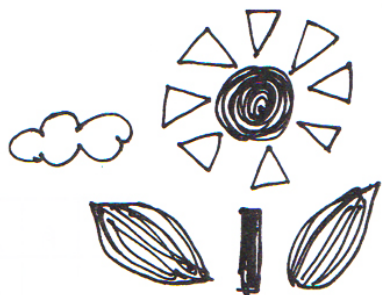
美肌通信の

3月号 VOL.68



O. MIZUHA
57

今月号の表紙




かわい くまちゃんか

楽しそうに歌もうたっている

すきな絵でも♡♡

お天気もよくてきもちよさそう～!!

工作が趣味で、

コマ回しが好きだそう♪ 

得意なことは、鉄棒の削り回り、

のぼり棒という

運動が得意な女の子が

かいてくださいました😊

院長はじめスタッフ一同バリエーション感謝

いたします!!

「フレイシャーを楽しんでいきます」、と一流アスリートが発している台詞をよく耳にします。彼等が言う「フレイシャー」とは、とりもなおさず「試合」という本番で感じている訳ですが、これを私達に当てはめると仕事の現場に相当するのでしよう。私自身、まだ「仕事のフレイシャーを楽しむ」までは辿り着いていませんが、仕事を好むという所までは来ています。

以前の「とよ・たち」で「知好楽」ということについて書きましたか、今も「楽」までの境地には至っていないのが現状で未熟さを痛感させるを得ません。

私が以前大学に勤務していた時、教授に叱咤激励を賜ったある言葉を思い出します。

「お前は小便から血が出る程働いたことがあるか？」この言葉で私は「熱意・根性・努力」として、これらをコントロールする「心術」を同時に教示して頂いたと思っています。

「楽」のステージに至るためには、心術を操ることが出来なければいけないと思うのです。

あらゆるプロレタリアーにに対し、心術を自分に有利にコントロール出来れば「楽」を実践することが可能となり、次から次に立ち上がるプロレタリアーさえも正の連金貨に転換することが可能となるでしょう。自分にはそれが可能であると心に言い聞かせています。

「知好楽」：これを知る者は、これを好む者に如かず。これを好む者は、これを楽む者に如かず。論語の教えの一つ。

これを仕事に例えると、ある仕事を知っているだけの人には、その仕事を好きな人にはかなわない。さらに、その仕事を好きなだけの人には、その仕事を楽める人にはかなわないということ。解釈としては、仕事を義務感でやっているだけには、好きだと思っでやっている人には到底かなわない。先ずはうそでも好きだと思ひ込む位の気合いで心術をコントロールすることが重要だと思ひます。

院長、拜